

文献 42

Drechsler, Wendy I; Knarr, John F; Snyder-Mackler, Lynn. A comparison of two treatment regimens for lateral epicondylitis: a randomized trial of clinical interventions. Journal of Sport Rehabilitation. 1997; 6: 226-234.

1. 目的

一般的なテニス肘に対する治療と神経緊張を用いた治療の有効性を比較する。

2. 研究デザイン

比較臨床試験

3. セッティング

記載なし

4. 参加者

上腕骨外側上顆炎の患者 18 名

5. 介入

神経緊張群 (NTG) ; 橈骨神経刺激する ULTT II b ポジションを用いての治療

橈骨頭の可動性が低いと判断された場合、橈骨モビライゼーションを 1 日 10 回繰り返した。

標準治療群 (STG) ; 週 2 回の超音波照射と伸筋腱部位のあん摩マッサージを 1 分×3 セット実施。さらに、手首の強化トレーニングをした。自宅ではストレッチとエクササイズを行なった。

※ ULTT II b : 背臥位で、肩をベッドから出すように斜めに臥床。肩甲骨を下制させ、肘関節伸展、肩甲上腕関節内旋、前腕回内、手関節と手指を屈曲させ肩甲上腕関節を外転させる動き。

6. 主なアウトカム評価項目

レクリエーションレベル、職業レベル、ULTT II b ポジション角度、握力

7. 主な結果

レクリエーションレベルは、NTG では退院時、3 ヶ月のフォローアップ期間で改善がみられ、STG では退院時のみ改善がみられた。

8. 結論

従来の STG と NTG の違いはなかったが、NTG に橈骨モビライゼーションを受けた場合においては、退院後のみならず 3 ヶ月後においても改善が認められていることから、長期的な追跡調査が必要である。

9. 論文中の安全性評価

記載なし

10. Abstractor のコメント

本研究は、テニス肘の新たな治療法として神経緊張および橈骨モビライゼーションの併用が有効である可能性があることを示している研究である。新たなテニス肘の治療知見としては大変興味深いものであるが、今後の追跡調査などの見解を待ちたい研究である。

11. Abstractor and date

池宗佐知子 2021. 2. 12